

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

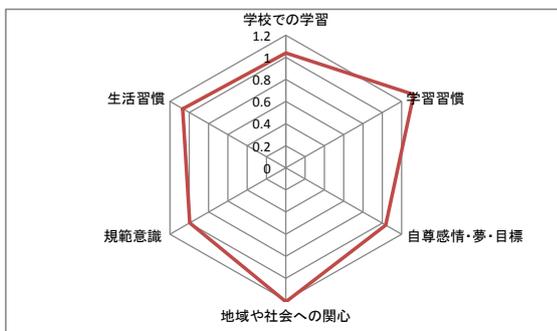
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国の結果と同程度の結果であった。読書が好きな生徒が多い反面、他とのコミュニケーションが少し苦手という本校の特徴が出ているようである。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	読むことに関する問題の正答率が高い	
	努力が必要な問題	話す聞くことに関する問題への正答率が若干低い	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国の結果を上回った結果であった。言語についての知識理解が高いので、それを生かして書くことへ結びつけていけるとより一層の成果が上がると思われる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	読む能力・言語についての知識理解の正答率が高い	
	努力が必要な問題	書く能力を要する問題	
数学A	全体的な傾向や特徴など	計算については全国同程度の結果である。今後は、図形や関数の問題への苦手意識克服を目指していきたい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数と式の問題は全国の正答率を上回っている	
	努力が必要な問題	数量や図形に関する知識理解	
数学B	全体的な傾向や特徴など	図形以外は全て、全国の正答率を上回っている。問題を読み込む力(国語力)がいかされた結果であると考えられる。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	資料活用の問題	
	努力が必要な問題	図形の問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全ての領域で全国の正答率を上回っている。今後も継続した取組を進めていく。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	物理・生物の領域の問題	
	努力が必要な問題	特になし	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
成果 学校での学習では、生徒の特性を捉えた指導法を各教科で実行することで、生徒の授業満足度の高い授業を創設できている。SSノートの取組などを通して、家庭学習の習慣が徐々に身に付いてきていると生徒自身が実感している。また、戸畑祇園大山笠などをはじめとする地域の伝統行事などに関心が大変高い点の特徴的である。教え合い活動の成果の一つである自尊感情の高まりが効果として表れてきている。
課題 規範意識の若干低い傾向にあるが、自分の行動を厳しくみることができているとも言える。家庭学習については、学校アンケートの保護者の結果との差異があるので、今後も課題を出すなどの取組を進めていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

学校全体の取組としては、教え合い活動などグループでの活動を今後も継続していく。全国学力・学習状況調査の結果だけでなく、定期考査や課題考査の結果を踏まえて、弱点の克服に向けた手立てを進めていく。また、昨年度の入試傾向に対応した力が身に付くように、職員研修では授業での発問の改善に注力する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭の関心も高く、学校の教育活動に賛同し、熱くご協力をいただいている。家庭学習の習慣づけについては、学校が宿題やSSノートの取組を進めていることを学校通信だけでなく、家庭教育学級やPTA理事会等でも紹介し、今後も連携した取組となるように啓発活動に取り組んでいく。また、小中連携を積極的に行い、情報共有を含めた体制づくりを推進する。